

自閉症と ADHD を併発している子の理解に向けて

たろう君はブレーキの故障した車に乗っている様な状態です

たろう君の持っている多動症 (ADHD) は 生まれつきの脳の機能障害が原因です。なので、たろう君自身に「おとなしく振る舞おう」という気持ちがあったとしても、ブレーキ自体が最初から故障しているので、自分にブレーキをかけることはできません (参照: 実行機能障害)。それなので普段、以下の様なたろう君の行動が見られますが、たろう君が「わざと」やっているのではなく、自分の衝動へのブレーキ機能が故障しているためにストップをかけられずに、事故として行動が出てしまっています。

- 手足をそわそわ動かしたり、いすの上でもじもじする
- ジッとしていられない
- 仲良く遊べない (物の取り合いなどのトラブルが起こりやすい)
- まるでエンジンで動かされているように行動する
- 大きな声が絶え間なく出てしまう
- 順番を待てない
- 他人の邪魔をする



たろう君が「オレはダメなヤツだ」と思えば思うほど、二次障害が重くなります

動きが激しくて、めちゃめちゃ元気で打たれ強そうに見える ADHD をもつたろう君ですが、たろう君のもっている多動症 (ADHD) のある子は 非常に傷つきやすく、「自分も周りの友だちと同じくらいにはまあまあできる」(You are O.K. I'm O.K.) という『自尊感情』が損なわれやすいです。そして、それが原因となり「反抗挑戦性障害」や「不安障害」、「うつ鬱(双極性障害)」、「チック症」などの二次障害が引き起こされます。現在、A 君に出来ている「唾吐き」や「瞼シパシパ」、「大きな声の独り言」も二次障害です。「オレはなんてダメなヤツなんだ…」と A 君が思ってしまうような対応をすればするほど、A 君の状態は悪くなっています。



たろう君との接し方：ブレーキの壊れた車が事故（トラブル）を起こさないために

A君の改善に向けての方法は大きく分けて以下の2つです。

- (1) お薬によって壊れたブレーキ機能を補う方法 (お薬を飲んでいる間は、お薬の力でブレーキがかけられます)
- (2) ブレーキの壊れた車でも事故を起こさないように道路（環境）を整えること

ブレーキの壊れている車に乗っているたろう君に「ブレーキだ！ブレーキを踏め！！」と言っても、ブレーキはかかりません。なんて言ったってブレーキが壊れていますから。なので、事前に通るべき道を伝えておくこと (前もって「こう振る舞ってね」とか「今日はこうなっているよと伝えること) が大切です。そして、「おっ、オレも事故を起こさずに運転できるじゃん！」と思えるとサイコー。



逆に、事故を起こす度に「ブレーキ踏めって言ってるだろ!!」という対応は二次障害の原因になります。